

本時の振り返り



1 第2学年『かけ算(2)』 (1/17)

2 本時の概要

前單元である『かけ算(1)』では、乗法の意味、及び5, 2, 3, 4の段の九九の構成や乗数と積の大きさの関係について学習してきた。本單元ではさらにこれまで活用してきた性質とともに、交換法則や分配法則、アレイ図などを活用し児童が自ら九九を構成する。

本時の導入では、学習発表会と関連付けた昔の運動会の様子を紹介しながら、現在も同じように種目となっている組体操のピラミッドに着目させ「6人一組のピラミッドを3つ作る」という問題につなげる。6×3の答えを出すために『かけ算(1)』で学習したことを活用し、考えのよさや同じアイデアを見つける集団検討をすることで理解を確かなものとする。

3 実践の振り返り

(1) 図の活用

式と答えをすぐに出すことができる児童には、友達にわかりやすく説明するために図を活用させる。また、どんな式になるのか、さらにその答えはいくつになるのかわからない児童には、まず図をかくことで手がかりとさせることが必要である。

どの児童も既習内容である乗法に関する性質やきまりを活用する式や図を自分なりに工夫してかくことができた。複数かくことができている児童もいたが、言葉で説明するとなると支援が必要であった。

(2) 考えを比べる話し合いの時間の設定

さまざまな表現方法が提示された後に集団検討の時間を設けることで、理解を確かなものとさせたり、その中からよりよい方法はどれか精選させたりすることが大切である。

6+6+6の累加や10のまとまりを作って答えを出す1年時の方法をつかっている児童には、『かけ算(1)』で学習した九九の性質(乗数が1増えると積は被乗数分増える)を使った考えに着目させる。また、ピラミッド型の図をかいた児童には、交換法則や分配法則を活用する場合は縦横にきちんと並んでいるアレイ図を利用したほうがわかりやすいことに気付かせる。そして、当てはめ問題でよりよい方法で問題を解決できることが望ましい。

A児の変容



本時：
ピラミッド型の
図をかいた。

当てはめ問題：
アレイ図をかいた。

7の段：7×4を4×4
と4×3に分けて考
えた。(分配法則)

8の段：8×6を6×
8で考えた。(交換
法則)

4 協議内容

よかった点

- ・既習事項が生かされていた。
- ・児童が自分たちで発表カードを整理して話し合う学び合いができた。
- ・集団検討の後に、友達のよいところを伝え合うことができた。
- ・当てはめ問題をうまく活用できた。



改善点

- ・発表までの時間をどう使えばよいのか。低学年の時から待っている時間を有効に使えるとよい。
- ・児童のつぶやきに「ピラミッドの形の図は面倒」というのがあり、そこからアレイ図のよさに気付かせるとよかった。
- ・次時の学習につなげることを考えると、 $6 \times 1 \cdot 6 \times 2 \cdot 6 \times 3$ で「6ずつ増える」という考えを最後にもってくるとよい。
- ・「いろいろな考えがあってよい」というのではなく、よりよいものを精選し活用できるようにまとめることが必要である。

5 指導講評 講師：吉川成夫先生

- ・スムーズに学習が進んでいた。導入の写真で関心も高められていた。
- ・本時が、単元の中でどの位置付けなのかを考える必要がある。問題を自分の力で考えて解決することが大切。
- ・かけ算は時間数も多い。かけ算の意味をおさえ、計算の仕方を考えて九九表を作るといふかけ算の技能が、かけ算全体の目標となる。
- ・答えをどう求めるか、学習の進め方が身に付いていた。数や式、図を用いて考えることができていた。
- ・まずは、答えを出す。そして、なぜ18になるのか考えさせる。「もっと簡単にもとめるためには？」という言葉かけもよい。多様な考え方を生かすことになる。そして、6の段の構成へとつなげる方法を精選する。
- ・図は児童の実態に合わせてよい。答えが18になるいろいろな考え方を実際に経験するとよい。
- ・6ずつ増えることを意識させることが大切であった。
- ・よいところを認めながら生かすという自信を高める授業になっていた。